

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

1. 流域の概要

(1) 流域の概要

寝屋川流域は、東側を金剛生駒紀泉国立公園に指定されている生駒山地、西側を大阪城から南に伸びる上町台地、北側と南側は淀川と大和川に囲まれた東西方向約14km、南北方向約19kmの盆地状の地形をしています。この流域は、大阪市東部を含む12市（大阪市、守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、藤井寺市、東大阪市、四條畷市、交野市）にまたがっており、流域面積は267.6km<sup>2</sup>となっています。

寝屋川は、生駒山地を源に打上川などの支川を合わせて南流し、北流する恩智川と大東市住道で合流し、西に流れを変え、古川、第二寝屋川を合わせ、流域の唯一の出口である京橋口（大阪市中央区）を経て旧淀川（大川）に合流する一級河川です。旧淀川（大川）に合流した後は、大阪の中心部である中之島を経て大阪湾に注いでいます。流域内河川の流路延長は約133kmで、寝屋川、第二寝屋川、恩智川、平野川、古川など大小様々な30河川が網目状に存在しています。（図1.1）

表 1.1 寝屋川流域河川一覧

	河川名	河川延長		河川名	河川延長
1	寝屋川	21,241m	16	おんだがわ 御神田川	638m
2	恩智川	15,441m	17	楠根川	3,188m
3	第二寝屋川	11,630m	18	みのごがわ 箕後川	1,165m
4	平野川	17,375m	19	なべたがわ 鍋田川	2,864m
5	今川	4,508m	20	たにだがわ 谷田川	2,570m
6	駒川	3,799m	21	ごんげんがわ 権現川	2,957m
7	鳴戸川	1,100m	22	えせみがわ 江蟬川	1,959m
8	平野川分水路	6,651m	23	きよたきがわ 清滝川	3,073m
9	古川	7,400m	24	きよたきがわぶら 清滝川分水路	1,000m
10	城北川	5,615m	25	さんらがわ 讃良川	2,925m
11	大川	1,653m	26	おかべがわ 岡部川	2,222m
12	日下川	359m	27	みなみまえがわ 南前川	1,334m
13	音川	2,158m	28	うちあげがわ 打上川	2,800m
14	新川	861m	29	たち川	1,326m
15	長門川	1,521m	30	ねやがわどうすいろ 寝屋川導水路	1,743m
			計画	ねやがわほくぶちかかせん 寝屋川北部地下河川	(14,300m)
				ねやがわなんぶちかかせん 寝屋川南部地下河川	(13,400m)
				流域合計(計画を除く)	135,746m

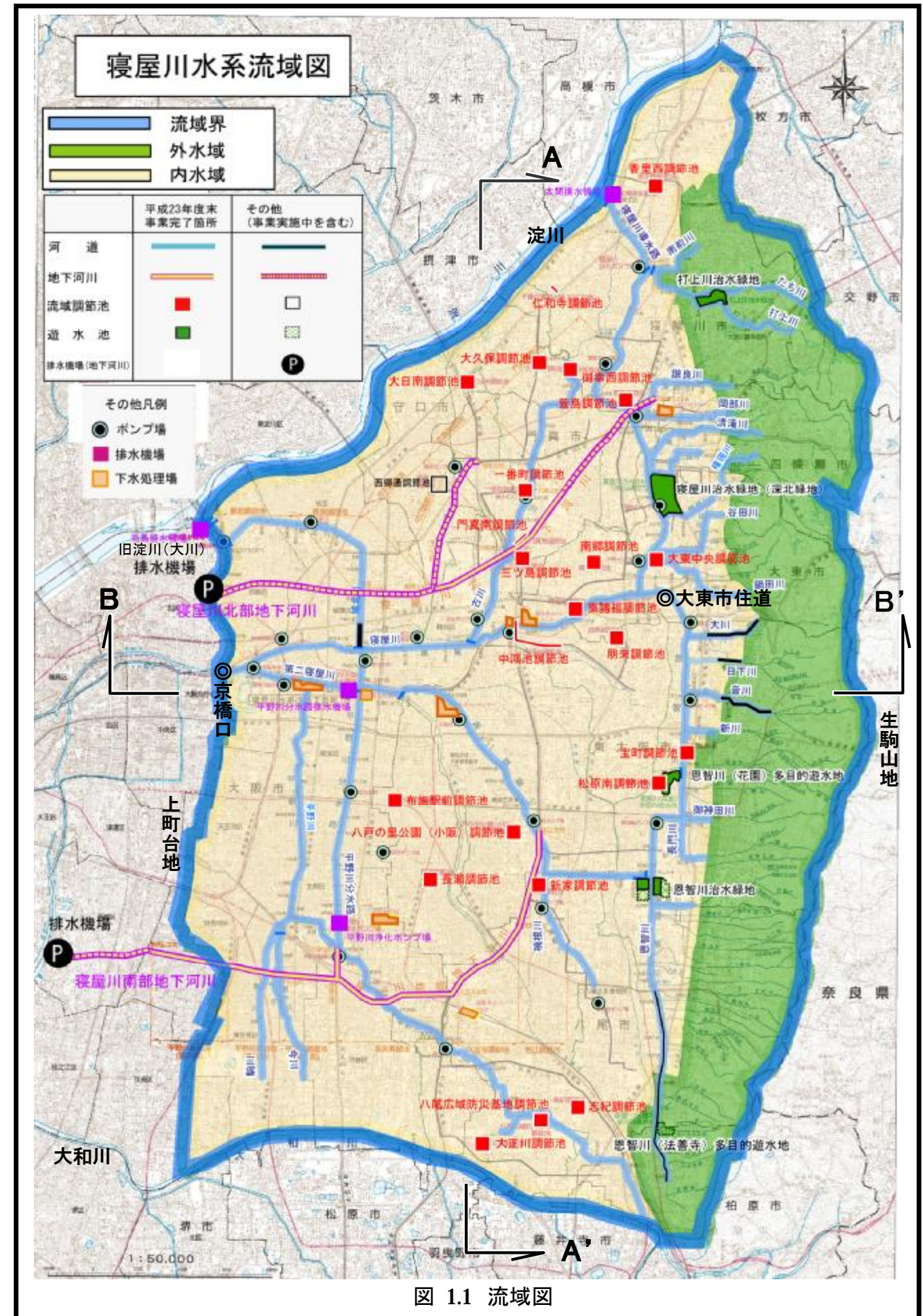
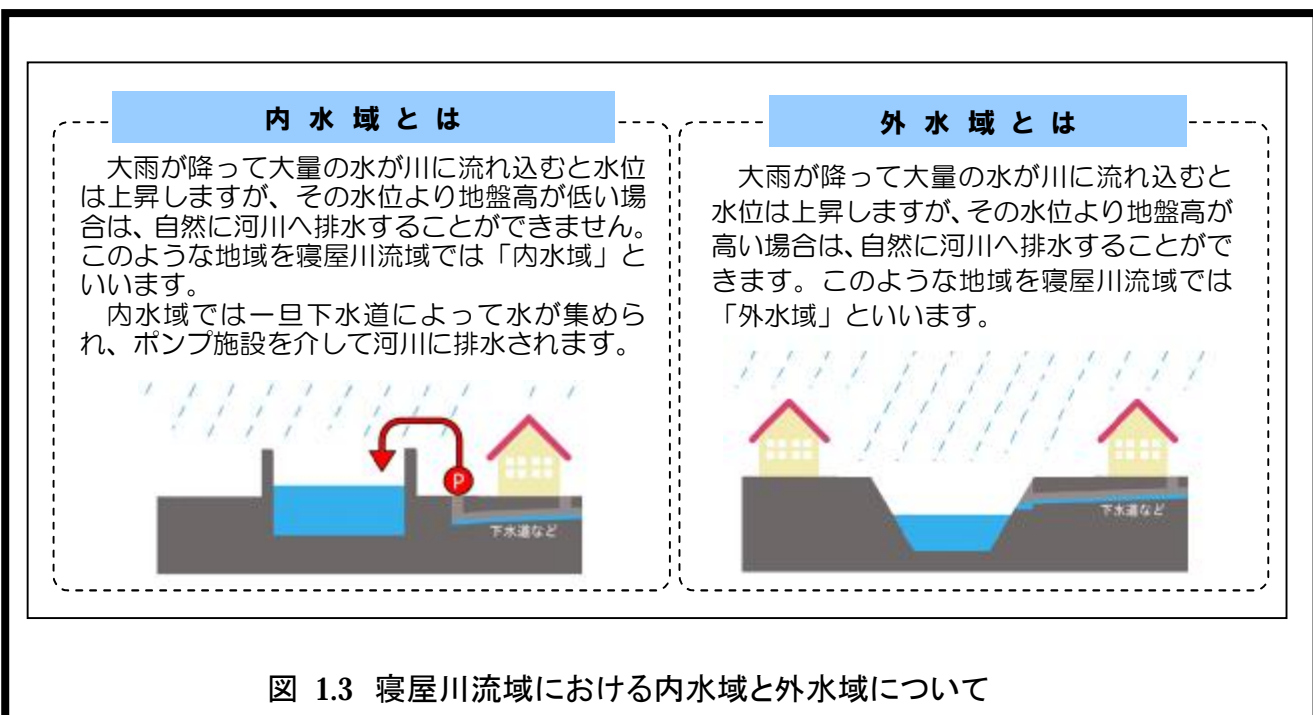
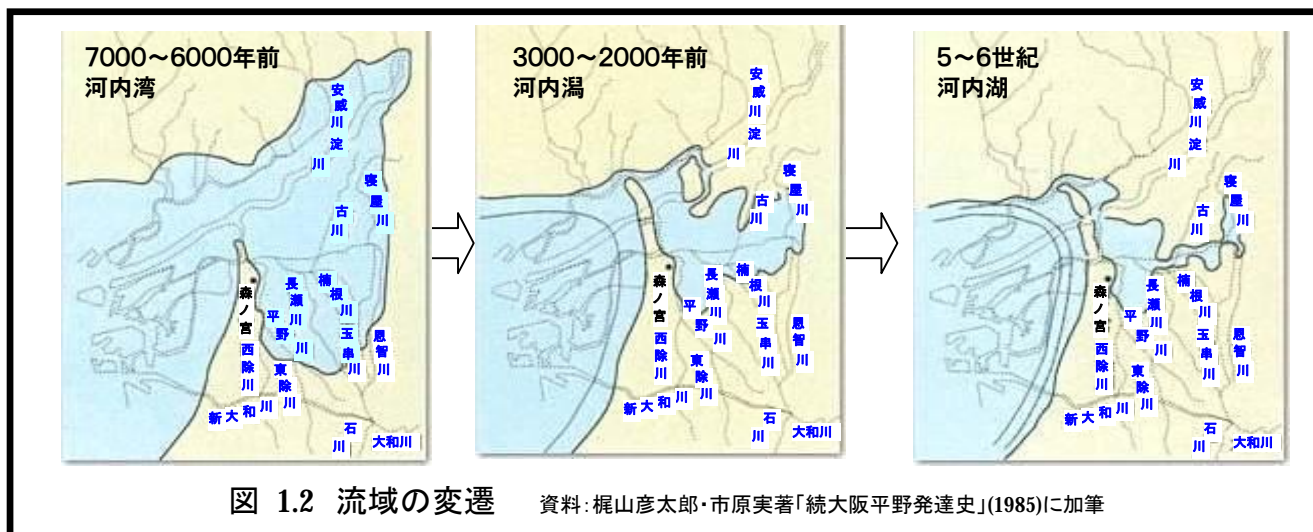


図 1.1 流域図

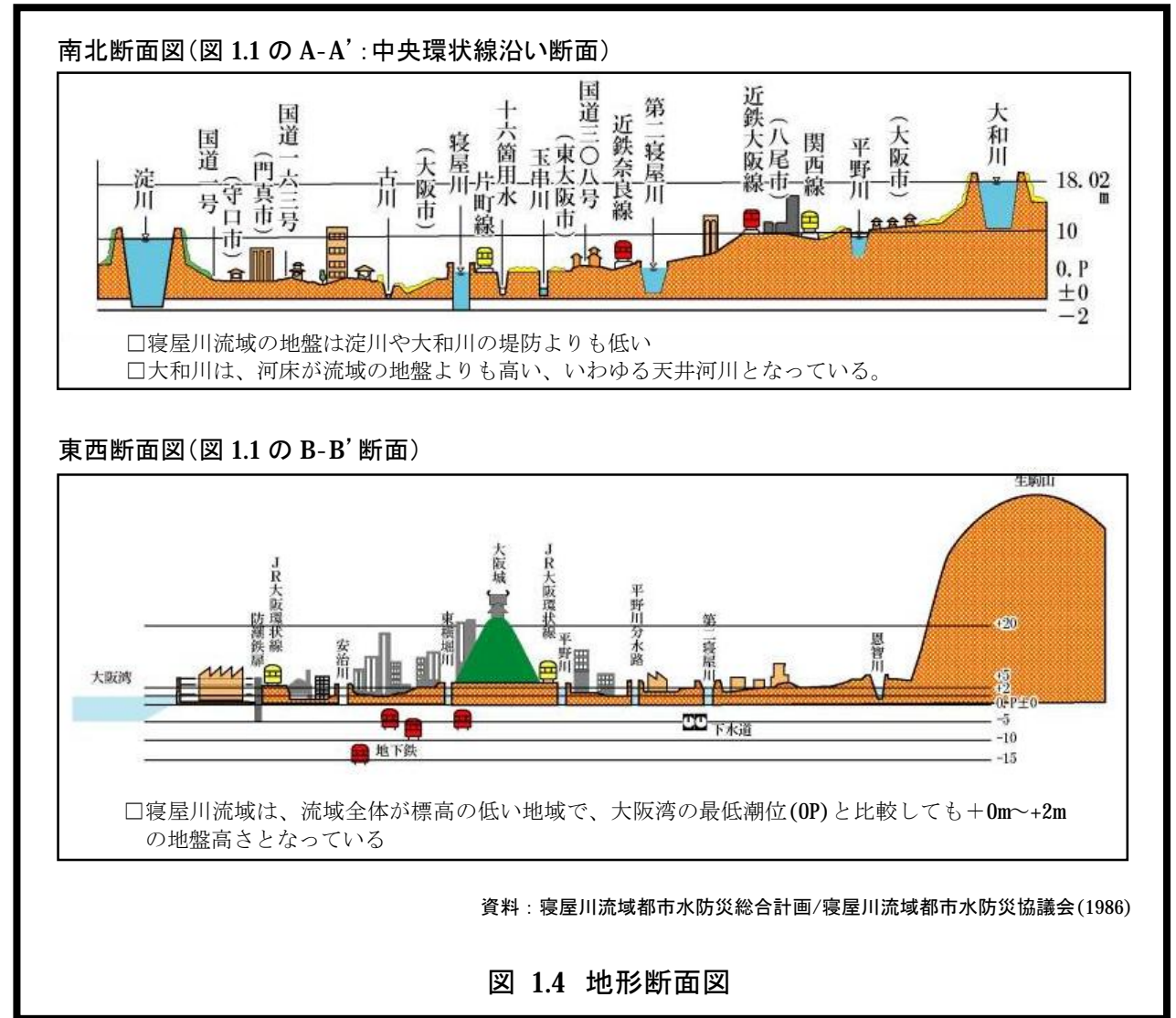


(2)流域の変遷

寝屋川流域は、約7,000~6,000年前には生駒山麓までが入海となっており、その後、淀川、大和川の度重なる氾濫や生駒山地から運ばれる土砂の堆積により、次第に現在の河内平野を形成していきました。その後、豊臣秀吉の時代には、淀川左岸の堤防の修築により淀川と寝屋川が分離され、江戸時代には、大川に流れ込んでいた大和川が現在の位置に付替えられました。これにより洪水は少なくなりましたが、一方で淀川や大和川からの堆積作用を失ったことから、流域の約4分の3にあたる地域（生駒山地の周辺を除く主に河内平野）は内水域<sup>1</sup>として残されることとなりました。(図1.2、図1.3、図1.4)



<sup>1</sup> 内水域：寝屋川流域では、地盤が河川水面より低いため、降った雨はそのままでは河川に流入できず、一旦下水道によって集められ、ポンプ施設を介して河川に排水されている地域を指す。





2. 流域の特性

(1) 自然環境特性

1) 地質

平地部では未固結堆積物の砂や泥により構成される大阪層群が、山地部では花崗岩が広く分布するとともに風化を受けた風化花崗岩が点在しており、一部、生駒山地との境界部付近では砂礫層がみられます。生駒山付近では斑れい岩が分布しています。

2) 気候

温暖で降水量の少ない「瀬戸内海式気候」に属しています。大阪管区気象台（大阪地点）における昭和56年から平成23年の年平均気温は16.9℃、年間降水量は1,290mmとなっています。なお、降水量は、梅雨期及び台風期に多く、冬期の降水量が少ないという特徴があります。

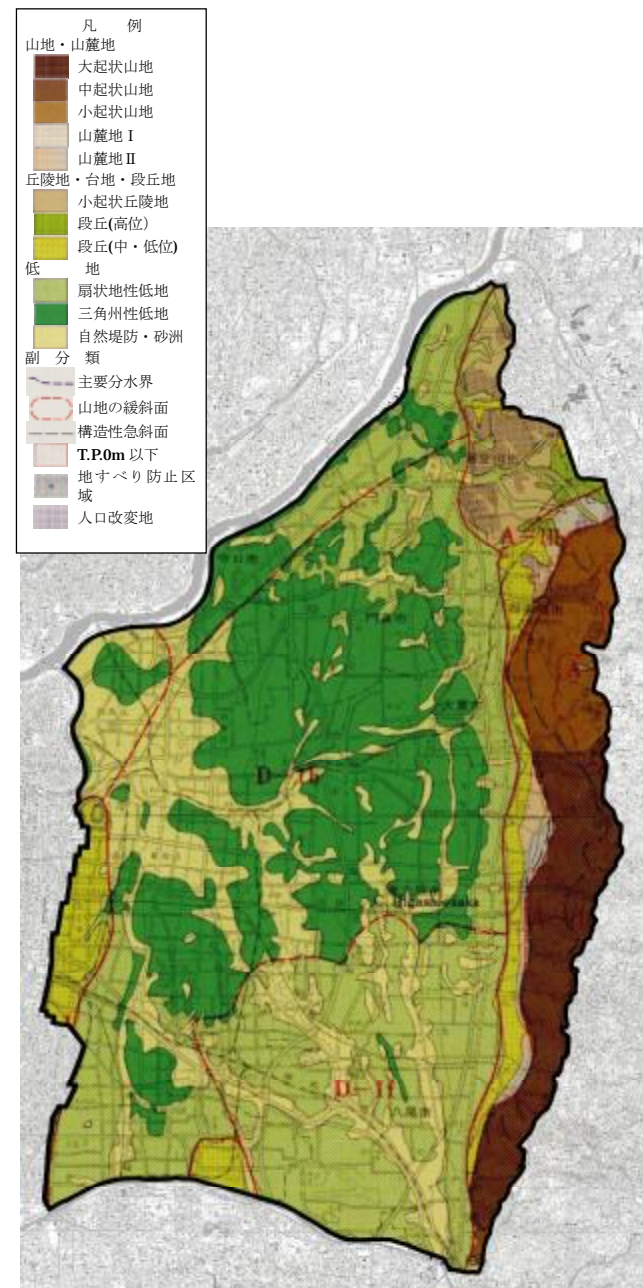


図 1.5 地形分類図

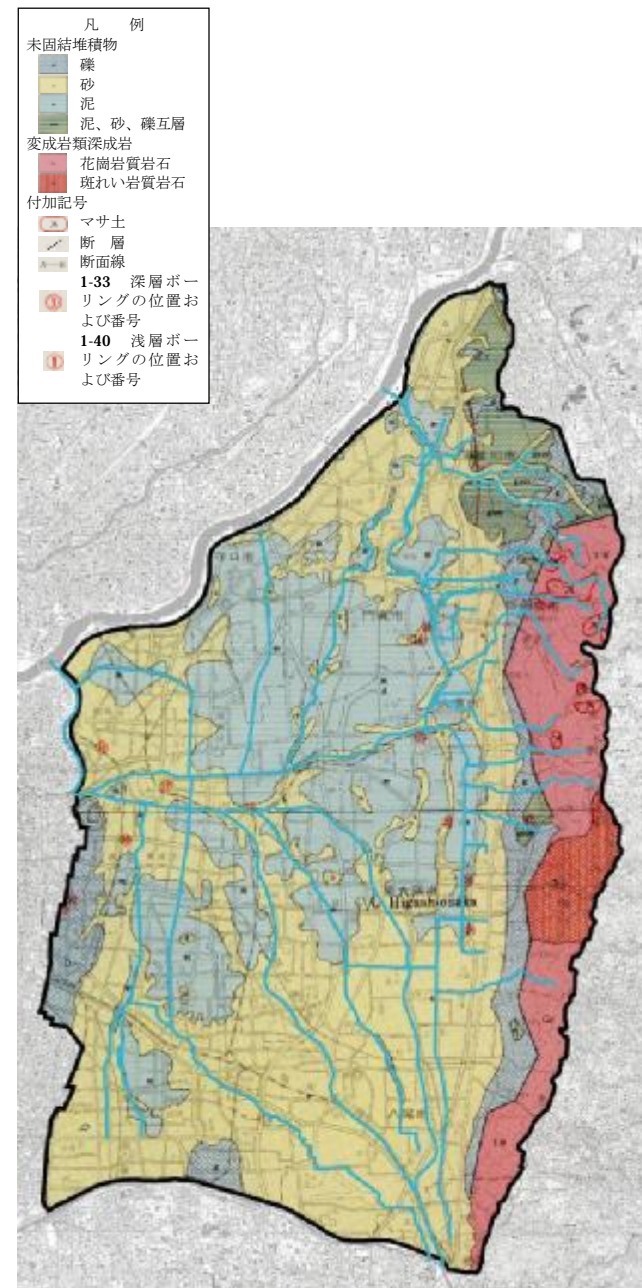
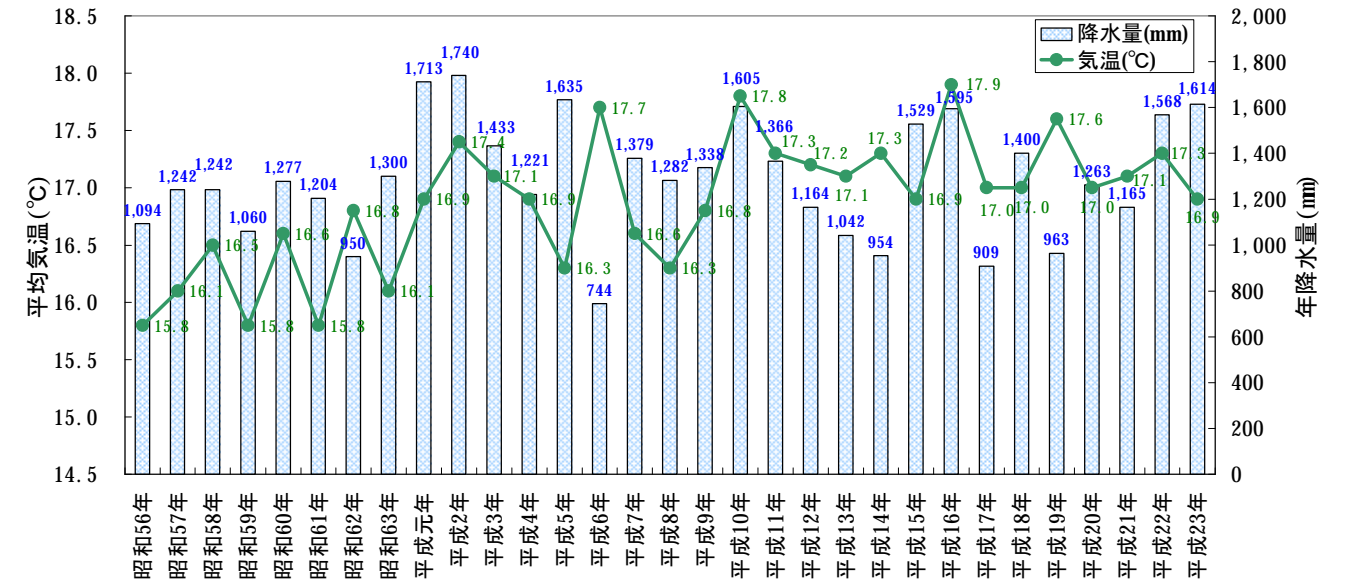
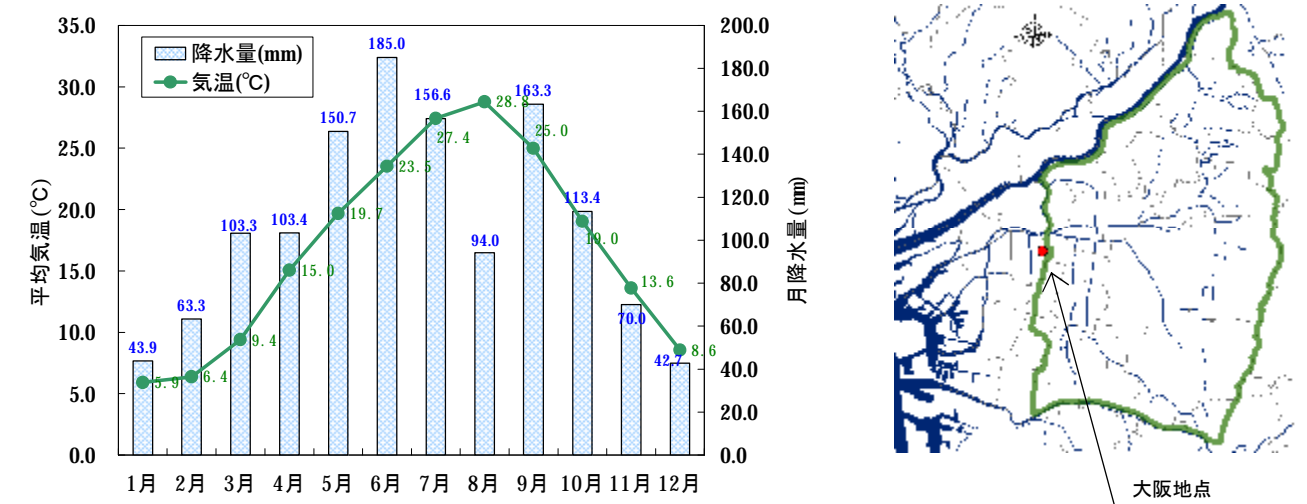


図 1.6 表層地質図



資料：大阪管区気象台（大阪地点 1981年～2011年）

図 1.7 年降水量と年平均気温の推移



資料：大阪管区気象台（大阪地点 1981年～2011年）

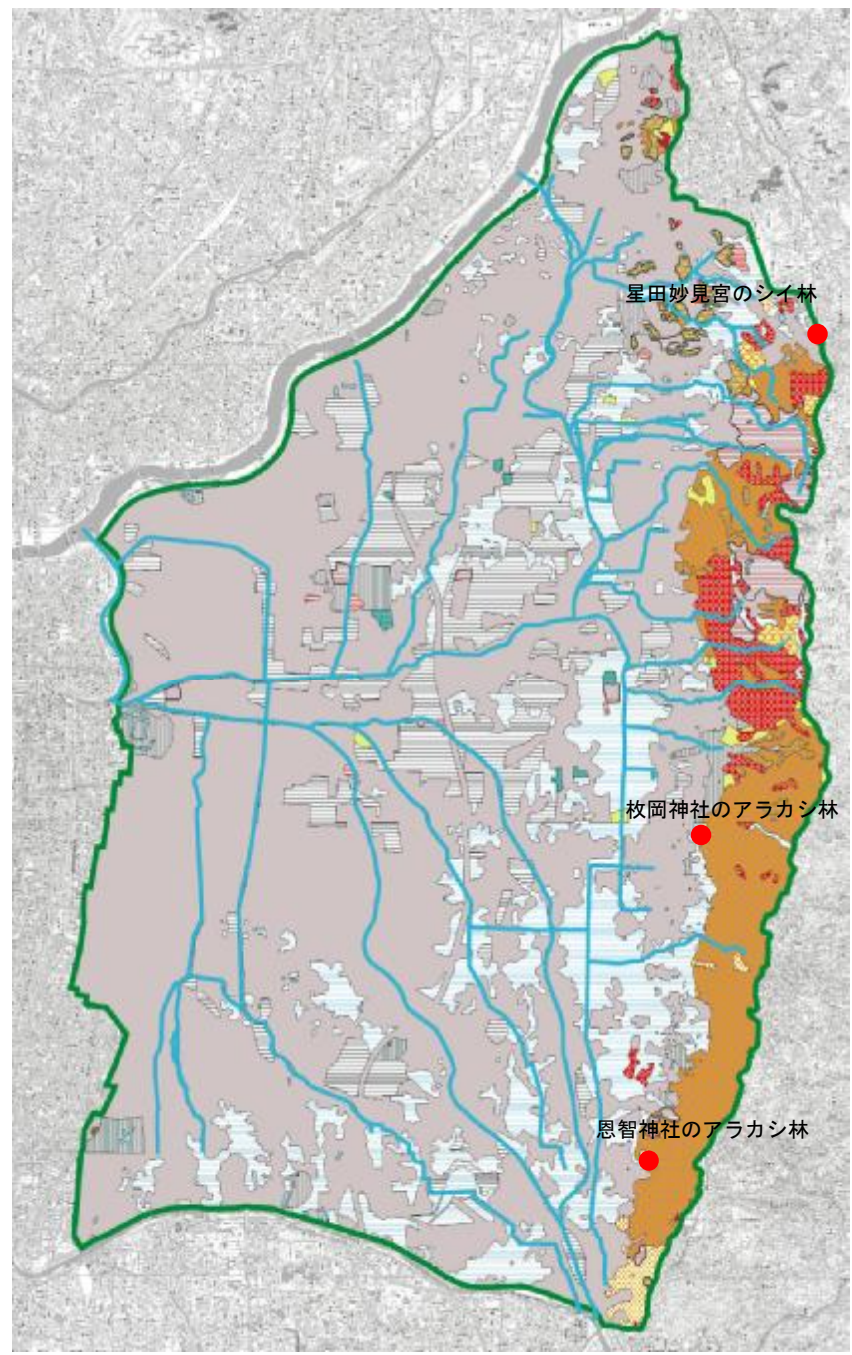
図 1.8 月降水量と月平均気温



3) 自然環境

① 植物

中下流域では、市街地が大部分を占めており、植生はほとんど見られません。  
 上流域では、打上川周辺などで、イネ科草本類を主とした植生が見られます。生駒山地では、アベマキーコナラ群集が広く分布しています。鍋田川及び大川の上流周辺などではモチツツジアカマツ群集が分布するものの、マツ枯れによる衰退及び植物遷移などによって、アベマキーコナラ群集に置き換わってきています。また、「星田妙見宮のシイ林」、「枚岡神社のアラカシ林」、「恩智神社のアラカシ林」については特定植物群落に指定されています。



資料  
 1. 第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査(大阪府)/環境省 2000年  
 2. 第6, 7回自然環境保全基礎調査 現存植生図 GISデータ(環境省)

図 1.9 既存植生図



イネ科草本類 (打上川)



アベマキーコナラ群集 (資料: 大阪府 HP)



モチツツジアカマツ群集



シイ林 (星田妙見宮)



アラカシ林 (枚岡神社)



アラカシ林 (恩智神社)

写真 1.1 流域内で確認される植物





<鳥類>

表 1.3 鳥類主要調査地

メッシュ No.	主要調査地	
	大阪の野鳥 VOL. 5 (平成元年調査)	大阪の野鳥 VOL. 6 (平成4, 5年調査)
1	淀川(淀川新橋～鳥飼大橋)	
2	星田周辺、くろんど園地 大阪市立大学附属植物園	—
3	北島、三ッ島	—
4	野崎観音、星田新池、飯盛山	飯盛山
5	大阪城公園、桜宮公園	—
6	鶴見緑地	鶴見
7	枚岡公園、石切神社、生駒山	生駒山
8	天王寺公園、桃ヶ池	—
9	久宝寺緑地	—
10	池島町、福万寺町、枚岡神社 瓢箪山	池島町
11	大阪市立大学、万代池 長居公園	—
12	霊園 大和川(明治橋、大正橋)	—
13	高安山、信貴山、	—

資料：1. 大阪の野鳥 VOL. 5/大阪府(1990)  
資料：2. 大阪の野鳥 VOL. 6/大阪府(1994)

メッシュ No.	主要調査地
	大阪府鳥類目録 (平成14年調査)
1	万博公園、安威川
2	山田池公園、尊延寺、くろんど園地、ほしだ園地
3	鶴見緑地、大阪城公園
4	緑の文化園、枚岡公園
5	
6	池島

資料：3. 大阪府鳥類目録(2001)

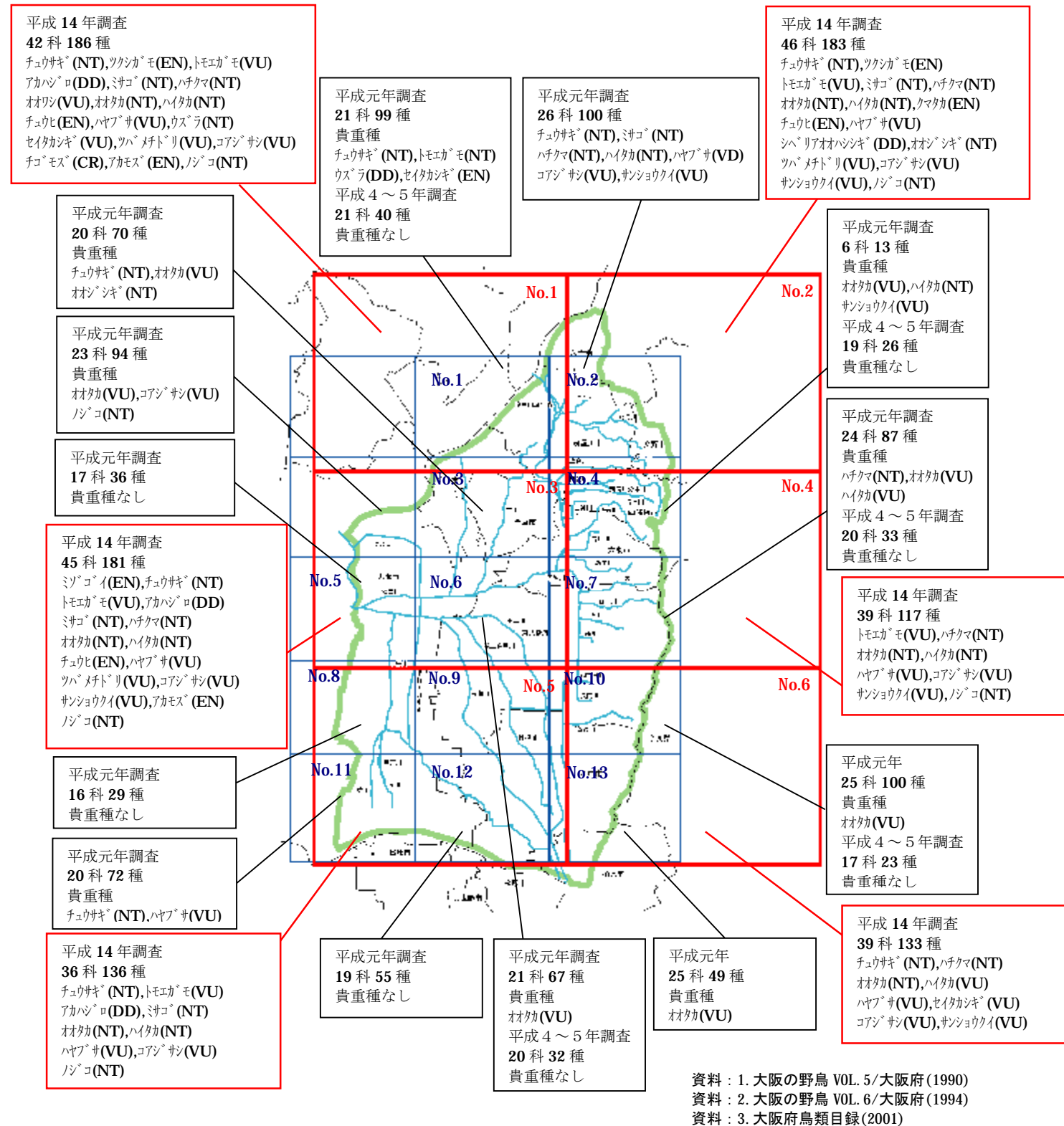


(資料：日本の野鳥/叶内拓哉ほか, 1998)



(資料：2010 大阪府環境白書)

写真 1.3 流域内で確認される代表的な貴重種



注) ( ) 内は以下のカテゴリーを示す

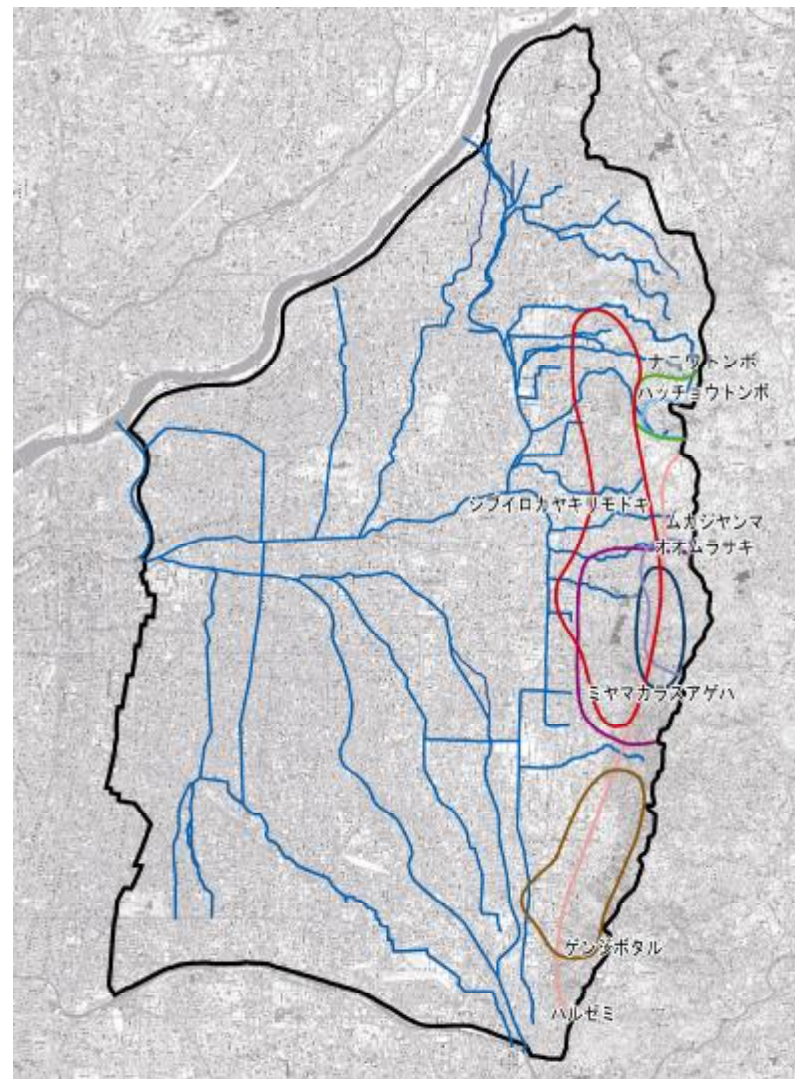
- EX: 絶滅(我が国では既に絶滅したと考えられる種)
- EW: 野生絶滅(飼育・栽培下でのみ存続している種)
- CR: 絶滅危惧 I A類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
- EN: 絶滅危惧 I B類(近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
- VU: 絶滅危惧 II類(絶滅の危機が増大している種)
- NT: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種)
- DD: 情報不足(評価するだけの情報が不足している種)

資料：「レッドリスト鳥類」環境庁(1998)

図 1.11 鳥類分布図



<昆虫類>



資料：平成5年大阪府昆虫類等生息状況調査報告書を基に図化

凡例

整理番号	調査対象種(目)	選定基準	備考
2	ムカシヤンマ	(1)	環境庁(指標昆虫)
3	ハッチョウトンボ	(1)	環境庁(指標昆虫)
6	ハルゼミ	(1)	環境庁(指標昆虫)
8	オオムラサキ	(1)	環境庁(指標昆虫)
9	ゲンジボタル	(1)	環境庁(指標昆虫)
10	ナニワトンボ	(1)(2)	専門家の意見、環境庁(特定昆虫D・G)
13	ミヤマカラスアゲハ	(1)	専門家の意見、環境庁(特定昆虫G)
21	ツブイロカヤキリモドキ	(3)	環境庁(特定昆虫C)

【調査対象種の選定基準内容】

- (1) 自然環境の状態を知る上で指標となるもの
- (2) 今後急激な減少や地域的な絶滅のおそれのあるもの
- (3) 分布が極限されるなど学術上貴重と考えられるもの

【備考区分】

- 環境庁：「第2回自然環境保全基礎調査 動物分布図 大阪府」を示す。
- 大阪府特定昆虫のランク：
  - C - 普通種であっても、北限・南限など分布界になると思われる山地に分布する種
  - D - 当該地域において絶滅の危機に瀕している種
  - G - 環境指標として適当であると考えられる種

図 1.12 昆虫類分布図



ハッチョウトンボ



ナニワトンボ



ツブイロカヤキリモドキ

(資料：学研生物図鑑 昆虫Ⅲ/石原保ほか、1983  
日本産トンボ幼虫・成虫検索図鑑/石田昇三ほか、1988)



ゲンジボタル



ムカシヤンマ

(資料：2010 大阪府環境白書)

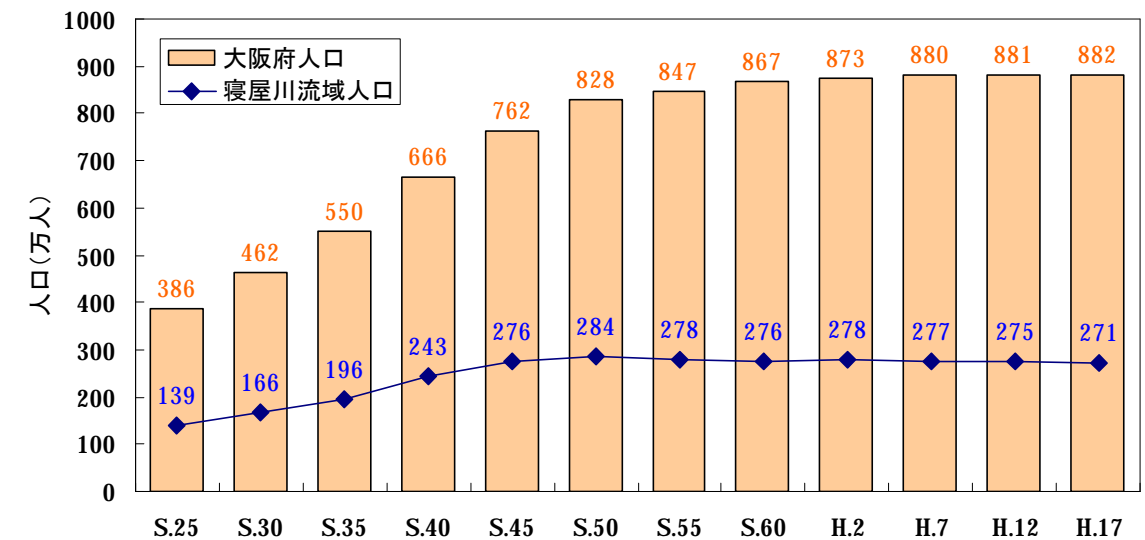
写真 1.4 流域内で確認される代表的な貴重種

(2) 社会環境特性

1) 人口

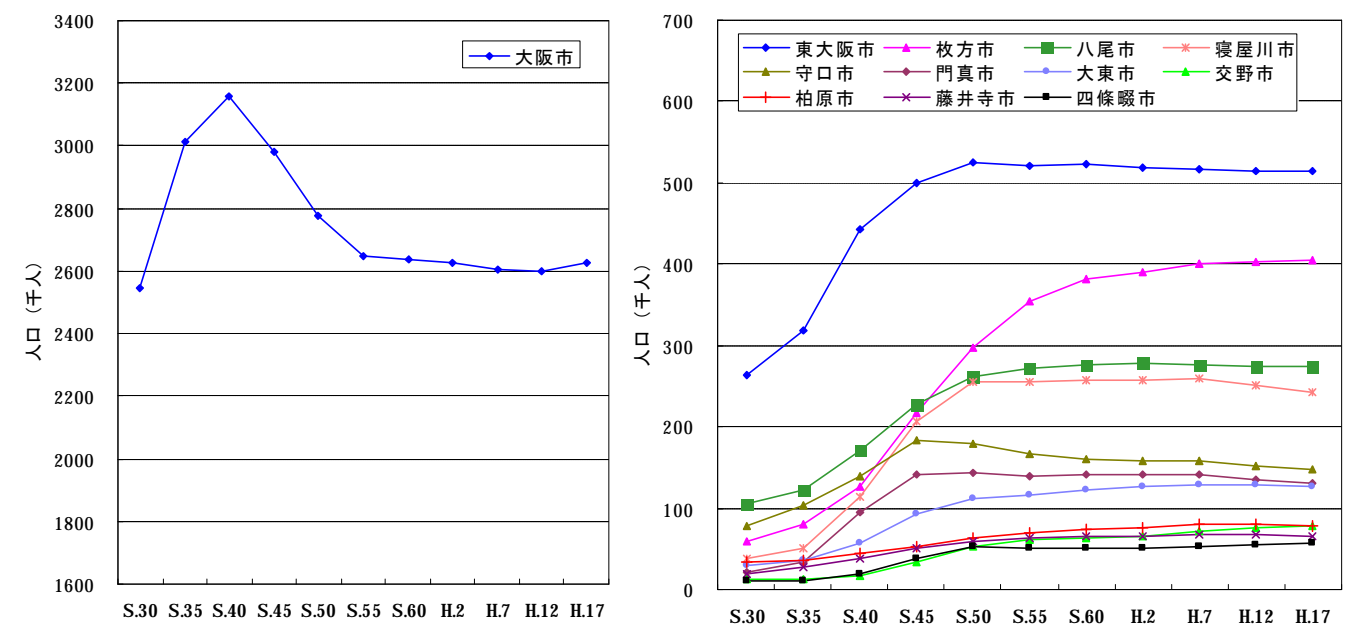
平成17年の流域内人口は約271万人で、大阪府全体の約31%を占めています。昭和50年頃までは増加していましたが、それ以降は大阪市を中心に緩やかな減少に転じています。

<人口>



資料：国勢調査(寝屋川流域人口は同調査メッシュ統計より)

図 1.13 寝屋川流域の人口推移



資料：国勢調査

図 1.14 寝屋川流域関係市の人口推移



2) 産業

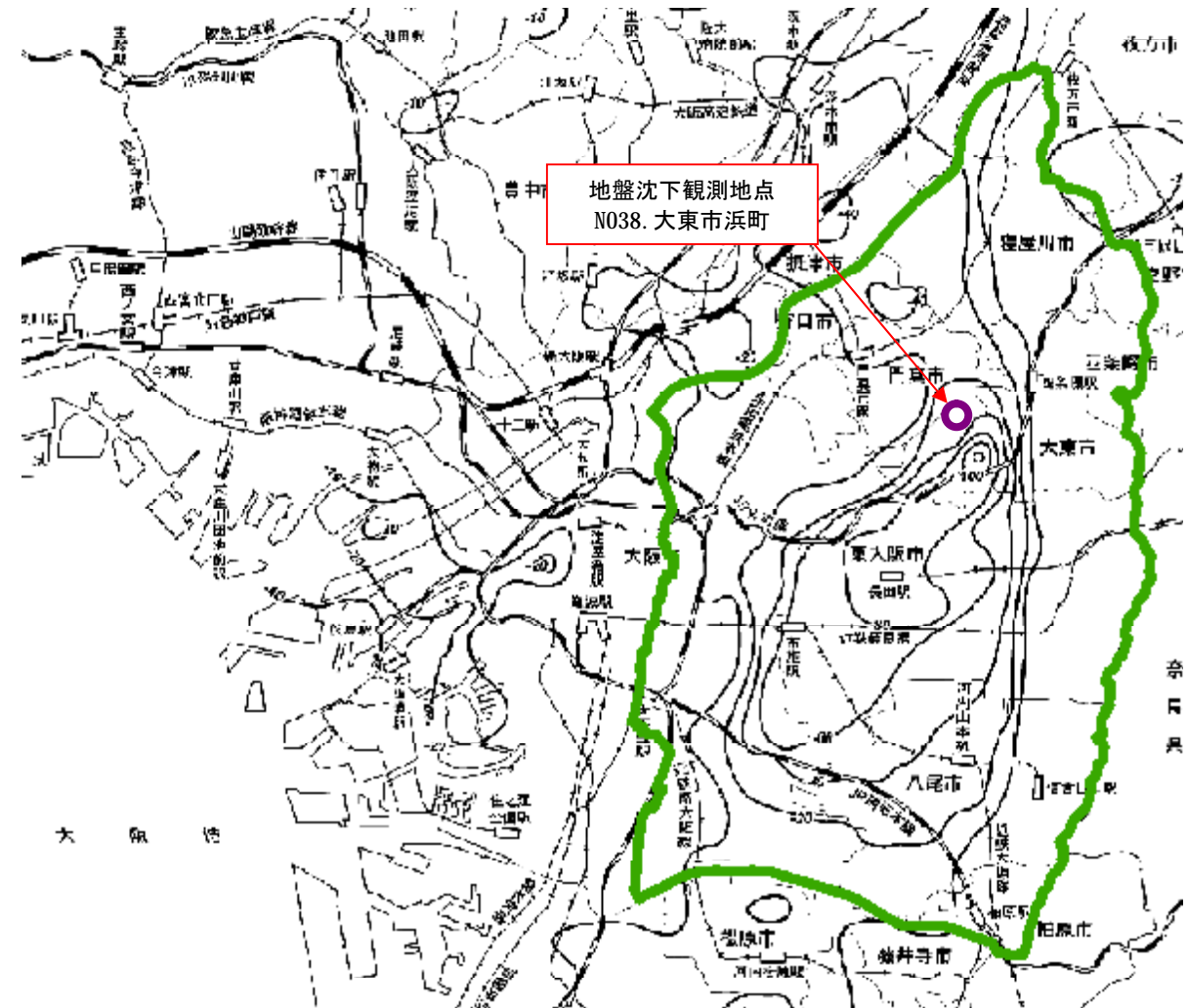
流域内の従業者数は約141万人(平成18年事業所企業統計調査)で、そのうち、約64%が第三次産業、36%が第二次産業となっており、典型的な都市型の産業構造を示していますが、所々農地も残っています。また、中小企業のまちと言われる東大阪市などを抱える寝屋川流域は大阪府の製造品出荷額の3分の1のシェアを占めるなど、特に第二次産業が集中しています。

なお、昭和30年代後半から40年代にかけては、工業の進展に伴う地下水の使用により、大東市、東大阪市を中心に年最大20cmもの地盤沈下が発生し、最も多く沈下した地点では、もとの地盤高さからの累積沈下量が1.2m近くに達していました。このため、昭和41年から工業用地下水の汲み上げ規制や工業用水道への転換の措置に取り組んだ結果、地盤沈下は徐々に沈静化し、現在はほぼ安定しています。

表 1.4 寝屋川流域の産業(平成18年時点)

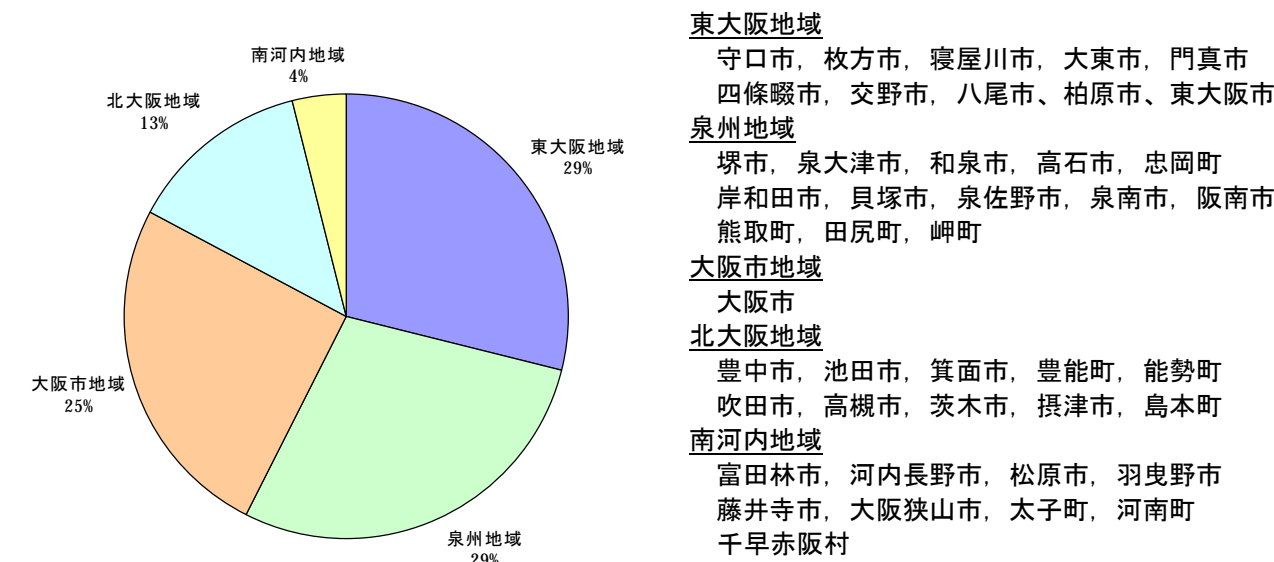
産業分類		事業所数	従業者数
第2次産業	鉱業	5	32
	建設業	9,972	86,307
	製造業	42,521	428,051
	電気・ガス・水道・熱供給業	97	5,001
第3次産業	運輸・通信業	4,875	96,040
	卸・小売業	70,098	401,207
	金融・保険業	1,611	29,360
	不動産業	6,428	24,321
	サービス業	39,512	322,612
	公務	246	19,201
合計		175,365	1,412,132

資料:平成18年事業所企業統計調査



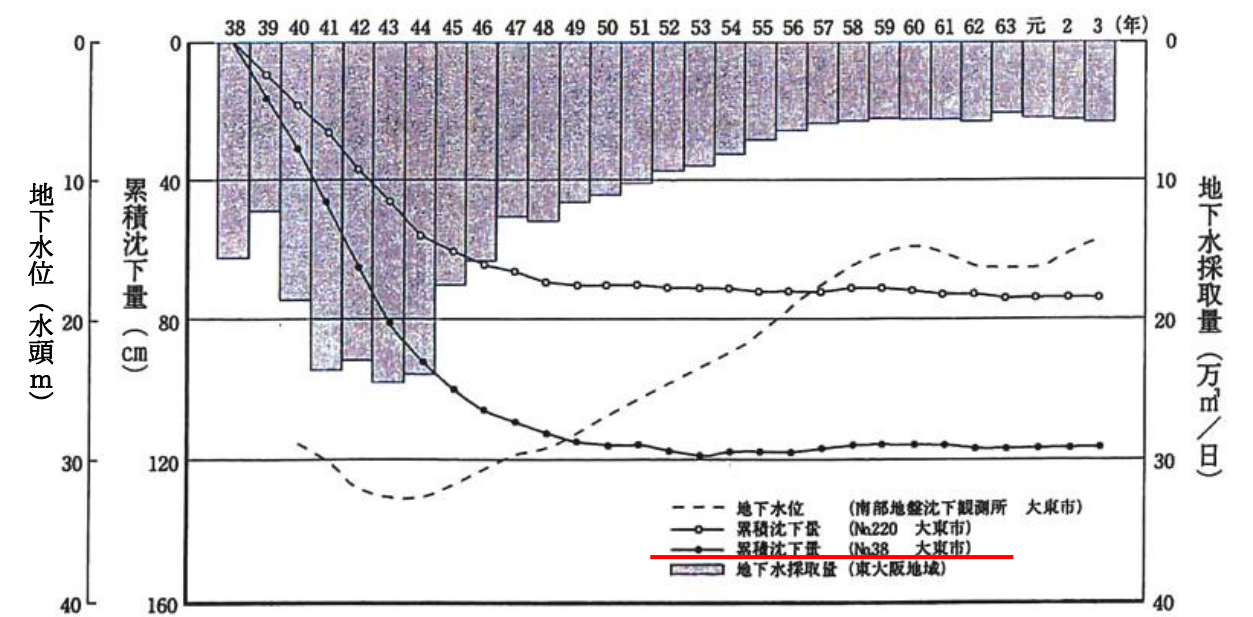
資料:環境省全国地盤環境ディレクトリ(平成21年度)

図 1.16 地盤沈下の状況(等沈下量線)



2009年大阪府工業統計

図 1.15 地域別製品出荷額割合



資料:都市河川の治水施設計画と水環境改善計画に関する研究(著者:金盛 弥 出版者:京都大学 2001年3月23日発行)

図 1.17 地盤の累積沈下量と地下水採取量、地下水位の相関関係



3) 土地利用

平成18年時点で、市街地約65%、工業用地約10%など市街化区域は約77%となっています。この流域は、昭和30年代の高度経済成長期に大阪市へのアクセス利便性の良さから、市街地の拡大が顕著となり、生駒山地の中腹まで住宅地が形成されました。また、中小企業の集中も進んでおり、一部には住居地域と工業地域が混在する地域も見られます。さらに、43の地下鉄の駅をはじめ、地下街や地下階を有する商業施設などの地下空間の利用も進んでいます。

一方、大阪城公園、花博記念公園鶴見緑地、長居公園、久宝寺緑地、寝屋川治水緑地<sup>2</sup>など緑あふれるやすらぎの空間が点在するとともに、金剛生駒紀泉国定公園に指定される上流の山地には、キャンプ場や広場、展望台、ハイキングコースなどが整備された「府民の森むろいけ園地」などが整備され、身近で健康なレクリエーションの場として多くの人々が利用しています。

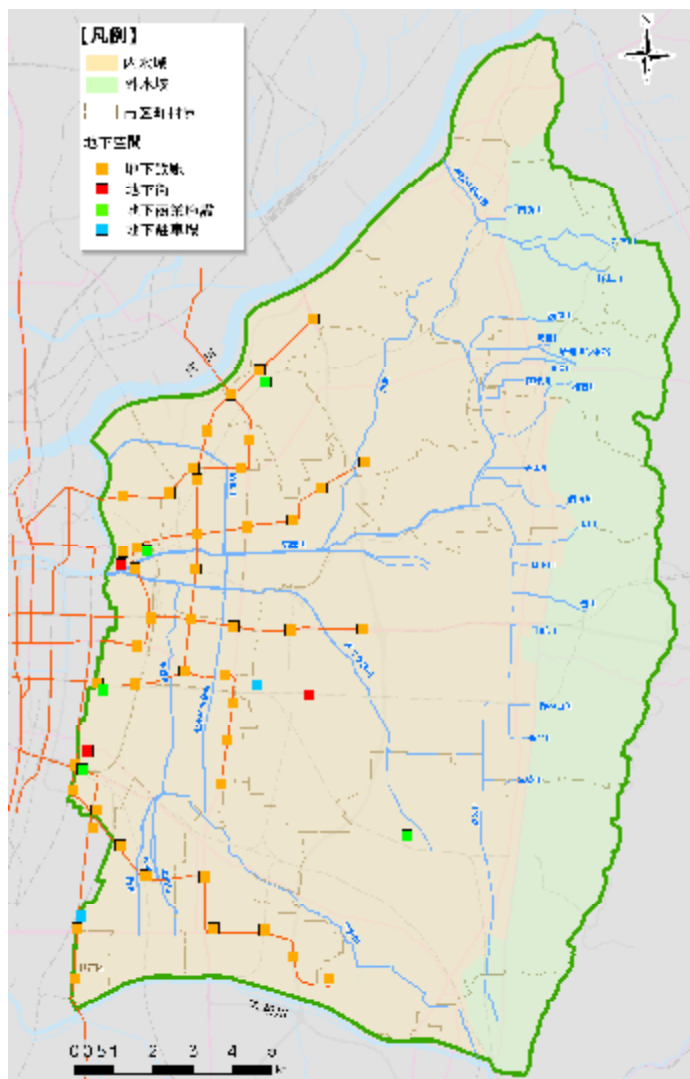


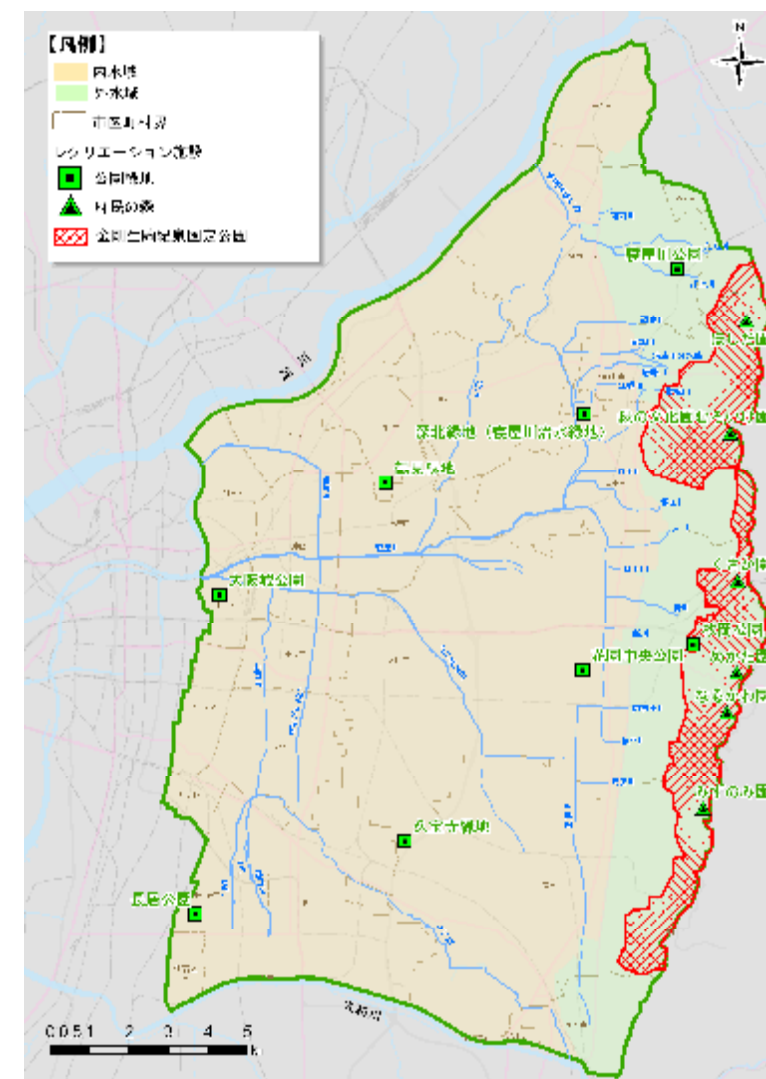
図 1.18 主な地下施設



写真 1.5 寝屋川流域の現況土地利用 (航空写真)



写真 1.6 地下施設(入り口)



資料：1. 大阪府 HP 公園緑地配置図 2. 大阪府 HP 府民の森

図 1.19 レクリエーション施設

【公園・緑地】



花博記念公園鶴見緑地



寝屋川治水緑地

【府民の森】



むろいけ園地

写真：1. 大阪市・スポーツ・みどり振興協会  
2. 大阪府みどり公社 HP  
3. 大阪府公園協会 HP

<sup>2</sup>治水緑地：一般的には遊水地と言い、洪水を計画的に一時貯留することにより、下流河川の洪水調節を行う施設。平常時には公園や防災避難地などとして利用される。



<土地利用>

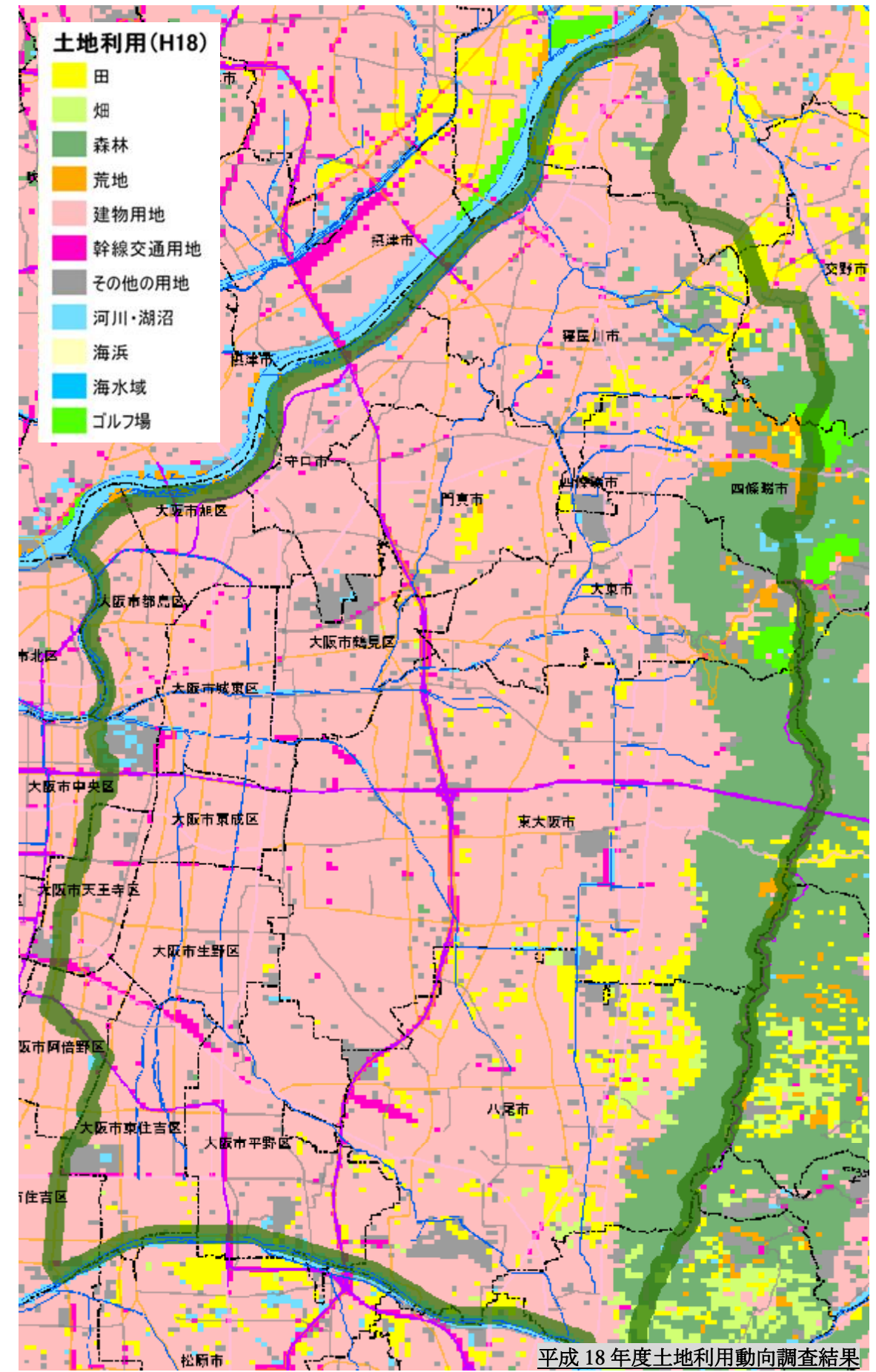
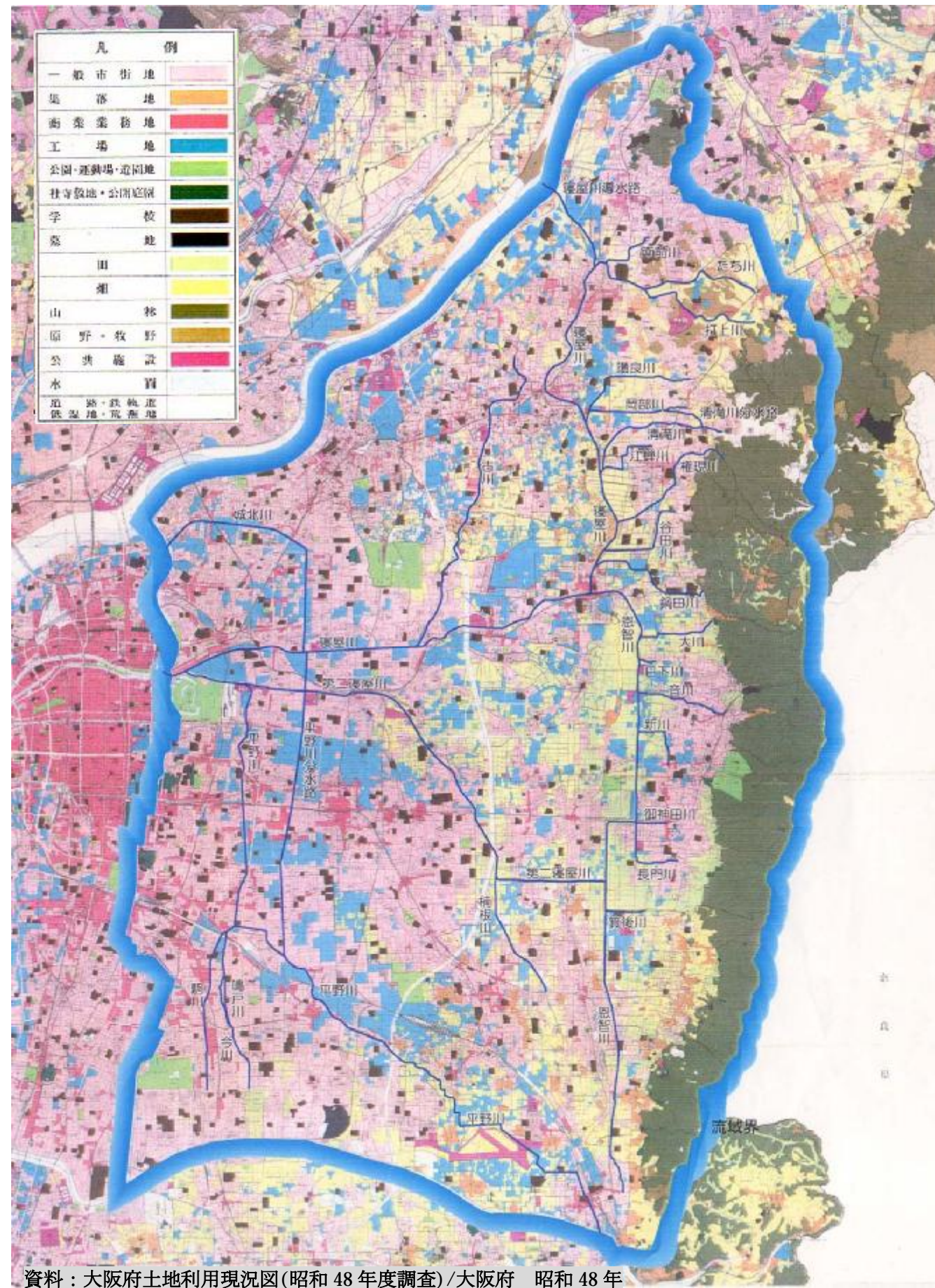
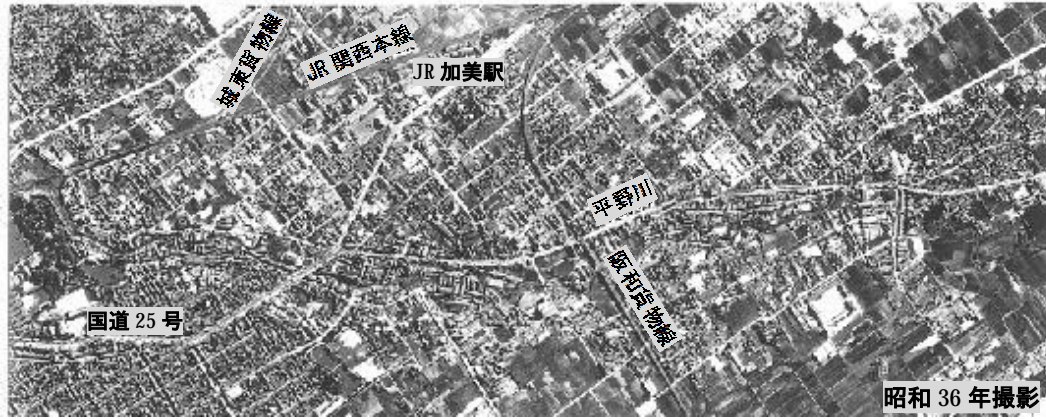


図 1.20 土地利用図(昭和48年及び平成18年)



<変遷>

平野川上流部(JR 関西本線加美駅周辺)



第二寝屋川上流部(恩智川合流点周辺)



図 1.21 流域の変遷(航空写真)



4) 歴史・文化・観光

寝屋川流域における治水の歴史は古く、仁徳天皇の時代に日本で最初の堤防である「茨田堤」が淀川左岸に築造されました。その後、1594年には豊臣秀吉が毛利・小早川・吉川の三家に命じて淀川左岸の堤防を修築させたのが「文禄堤」であり、これにより淀川と寝屋川が分離され、堤防上には京都伏見城と大坂を結ぶ最短陸路（後の東海道）が造られました。江戸時代に入ると、1704年には河内郡今米村の庄屋中甚兵衛らの尽力で大和川の付替工事が行われたことにより、洪水は大幅に減少しましたが、一方で両河川による堆積作用を失う結果となり、河内平野のほとんどは、低湿地のまま取り残されることとなりました。

また、鴻池善右衛門ら豪商たちが、鴻池（新開池）や深野池などの河内平野の池や低湿地を埋め立て、新田開発を盛んに行いました。旧川筋の河床跡は砂質土で田畑には不向きであったため、地質的に適した綿づくりが盛んに行われるようになり、後に河内木綿の産地として全国にその名を知られるようになりました。このころの河川は、物資の輸送だけではなく生活に必要な交通路としても重要な役割を果たしており、屋形船で川をさかのぼる「野崎参り」や大坂と柏原の間を行き交う「柏原船（20石船）」など舟運が発達していました。

明治に入っても低湿地帯であったことから、開発は進まず、のどかな田園風景をみせていましたが、戦後の産業・経済の発展と共に、大阪市に隣接するという地理的好条件のため市街化が急激に進行し、現在に至っています。

このように、古い歴史をもつ寝屋川流域では、難波津など水に関する多くの地名を残しているとともに、難波宮跡をはじめとする数多くの史跡、名勝、天然記念物、重要文化財等が流域内に点在しています。

また、寝屋川流域には、大阪のシンボル「大阪城」の周辺に広がる大阪城公園や、花博会場となった花博記念公園鶴見緑地など多数の観光名所があります。また、なみはやドーム（府立門真スポーツセンター）や花園ラグビー場などではスポーツが盛んに行われており、多くの観戦客が訪れています。



野崎観音

図 1.23 野崎参り 資料:大東市 HP

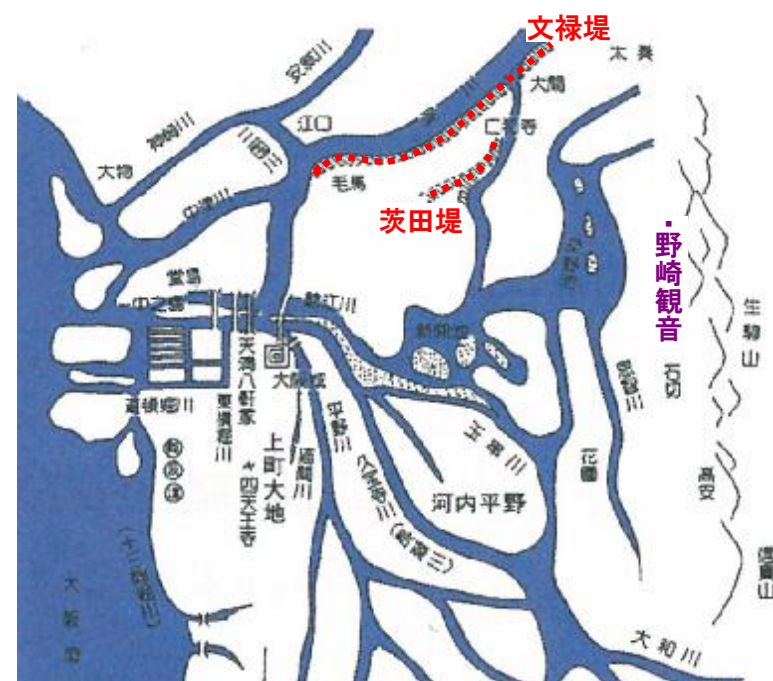


写真 1.7 石碑(茨田堤) 資料:寝屋川市 HP



写真 1.8 難波宮跡 資料:大阪府 HP



写真 1.9 大阪城 資料:大阪府 HP



写真 1.10 なみはやドーム 資料:大阪府 HP



写真 1.11 花園ラグビー場 資料:東大阪市 HP

図 1.22 1600年頃(江戸時代初期)の河川 資料:続大阪平野発達史/梶山・市原(1985)に加筆



<文化財>

表 1.5 流域内における文化財

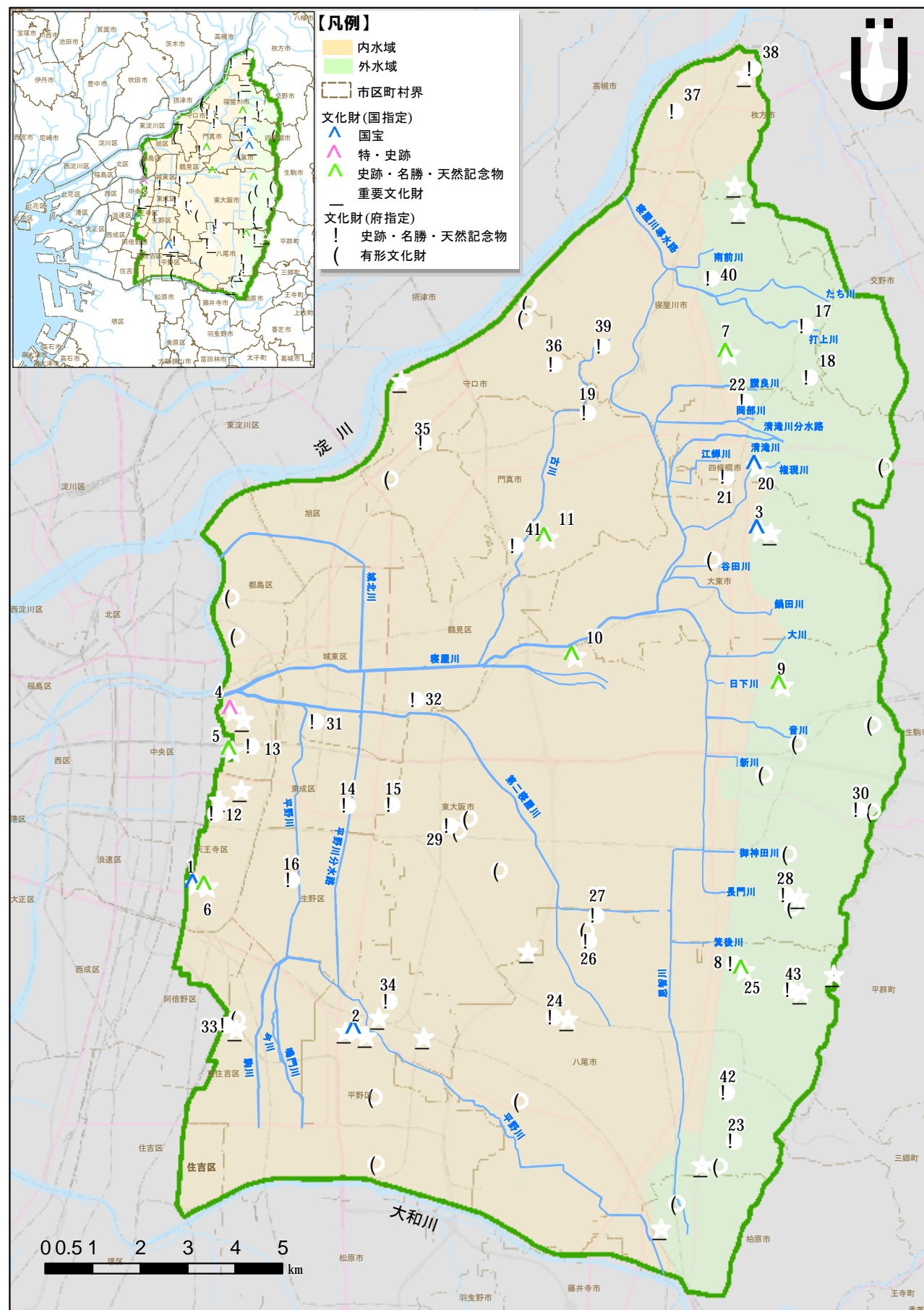


図 1.24 文化財位置図

指定	区分	名称	所有者	制定年月日	所在地	図番		
国指定	国宝☆	紙本著色 扇面法華経册子 (5帖, 98葉)	四天王寺	M0. 12. 28	天王寺区	1		
		懸守 (7懸)	四天王寺	M0. 12. 28	天王寺区	1		
		丙子椒林剣	四天王寺	T1. 9. 3	天王寺区	1		
		七星剣	四天王寺	T1. 9. 3	天王寺区	1		
		四天王寺縁起 (2巻)	四天王寺	S24. 2. 18	天王寺区	1		
		金銅 威奈大村骨藏器	四天王寺	M42. 4. 5	天王寺区	2		
		綾本墨書 毛詩鄭箋残 (1巻)	大念仏寺	M3. 4. 20	平野区	3		
		短刀 銘; 高市口住金吾藤真吉 (名物桑山保昌) □享二二年甲子十月十八日	個人	S6. 1. 19	大東市	20		
		特・史跡◎	大坂城跡	国 (管理団体 大阪市)	S30. 6. 24	中央区	4	
		国指定	史跡・名勝・天然記念物○	難波宮跡	国、大阪市、その他	第一次 S39. 5. 2 第二次 S51. 3. 31 第三次 S61. 8. 4	中央区	5
				四天王寺旧境内	四天王寺	S26. 6. 9	天王寺区	6
契沖旧庵 (円珠庵) ならびに墓	円珠庵			T11. 3. 8	天王寺区	6		
高宮庵寺跡	寝屋川市、大社御祖神社			S55. 5. 13	寝屋川市	7		
心合寺山古墳	国、八尾市ほか			S41. 2. 25	八尾市	8		
日下貝塚	東大阪市ほか			S47. 7. 26	東大阪市	9		
鴻池新田会所	東大阪市ほか			S51. 12. 25	東大阪市	10		
薫蓋のクス	三島神社			S13. 5. 30	門真市	11		
重要文化財△	24ヶ所、63件							
府指定	史跡・名勝・天然記念物●			井原西鶴墓	誓願寺	S13. 5. 11	中央区	12
				越中井	大阪市	S13. 5. 11	中央区	13
		僧梨冲遺跡妙法寺境内	妙法寺	S46. 3. 31	東成区	14		
		摂津笠縫邑跡	深江稲荷神社	S47. 3. 31	東成区	15		
		御勝山古墳	大阪府	S47. 3. 31	生野区	16		
		寝屋古墳	大阪府	H5. 11. 24	寝屋川市	17		
		石宝殿古墳	打上神社	S48. 5. 10	寝屋川市	18		
		伝茨田堤	国	S49. 3. 29	門真市	19		
		伝和田賢秀墓	四條畷神社	S45. 12. 7	四條畷市	20		
		伝楠木正行墓	四條畷神社	S46. 3. 31	四條畷市	21		
		忍丘古墳	忍陵神社、大正寺	S47. 3. 31	四條畷市	22		
		恩智遺跡	恩智神社	H7. 12. 13	八尾市	23		
		河内県庁跡	大信寺	S45. 2. 20	八尾市	24		
		鏡塚古墳	個人	S45. 12. 7	八尾市	25		
		萱振1号墳	大阪府	H1. 3. 1	八尾市	26		
		木村重成墓	大阪府、八尾市	S14. 2. 6	八尾市	27		
		河内往生院伝承地	往生院六万寺ほか	H7. 12. 13	東大阪市	28		
		長栄寺境内	長栄寺	S46. 3. 31	東大阪市	29		
		慈光寺	慈光寺	H3. 3. 29	東大阪市	30		
		白山神社のいちよう	白山神社	S45. 2. 2	城東区	31		
		阿遅速雄神社のくす	阿遅速雄神社	S45. 2. 20	鶴見区	32		
		法楽寺のくす (1本)	法楽寺	S56. 6. 1	東住吉区	33		
		旭神社のくす	旭神社	S56. 6. 1	平野区	34		
		旭神社のいちよう	旭神社	S56. 6. 1	平野区	34		
		旭神社のむく	旭神社	S56. 6. 1	平野区	34		
		難宗寺のいちよう	妙楽寺	S4. 8. 10	守口市	35		
		妙楽寺のつつじ	難宗寺	S50. 3. 31	守口市	36		
		光善寺のさいかち	光善寺	S50. 3. 31	枚方市	37		
		枚方田中邸のむく	個人	S45. 2. 20	枚方市	38		
		神田天満宮のくすのき	上神田自治会、中神田自治会 下神田自治会	S47. 3. 31	寝屋川市	39		
		春日神社のしいの社叢	春日神社保存会	S56. 6. 1	寝屋川市	40		
		熊島のくす	個人	S45. 2. 20	門真市	41		
		四條畷楠木正行墓のくす	四條畷神社	S46. 3. 31	四條畷市	21		
		善光寺のくす	善光寺	S45. 2. 20	八尾市	42		
		玉祖神社のくす	玉祖神社	S45. 2. 20	八尾市	43		
		枚岡の原始ハス	個人	S45. 2. 20	東大阪市	44		
		有形文化財▲	26ヶ所、37件					
		市指定	156ヶ所、222件					

資料：大阪府HP 府内の指定文化財一覧より (国・府指定2011年度末時点, 市指定2010年9月末時点)

資料：国指定文化財等データベースより (2011年度末時点)



5) 交通

主要な道路としては、国道1号、308号をはじめとする複数の一般国道や、近畿自動車道、第二京阪道路、阪神高速道路など高速道路、大阪中央環状線などの府道があり、大阪経済圏の中核機能を担う道路が縦横に走っています。平成22年度道路交通センサス（全国道路交通情勢調査）の平日24時間交通量では、国道1号で約71,000台/日（枚方市山之上北町）、流域中央部に位置する大阪中央環状線と国道308号の交差点付近で約40,000台/日（東大阪市荒本北）と府内でも有数の多交通のルートとなっています。

また、流域内の鉄道としては、南北方向にJR線（おおさか東線）、大阪モノレールが、東西方向にJR線（関西本線、学研都市線）、近鉄線、京阪線、網目状に大阪市営地下鉄が整備されており、大阪府の他の地域と比べても鉄道網が発達している地域となっています。（図1.25）

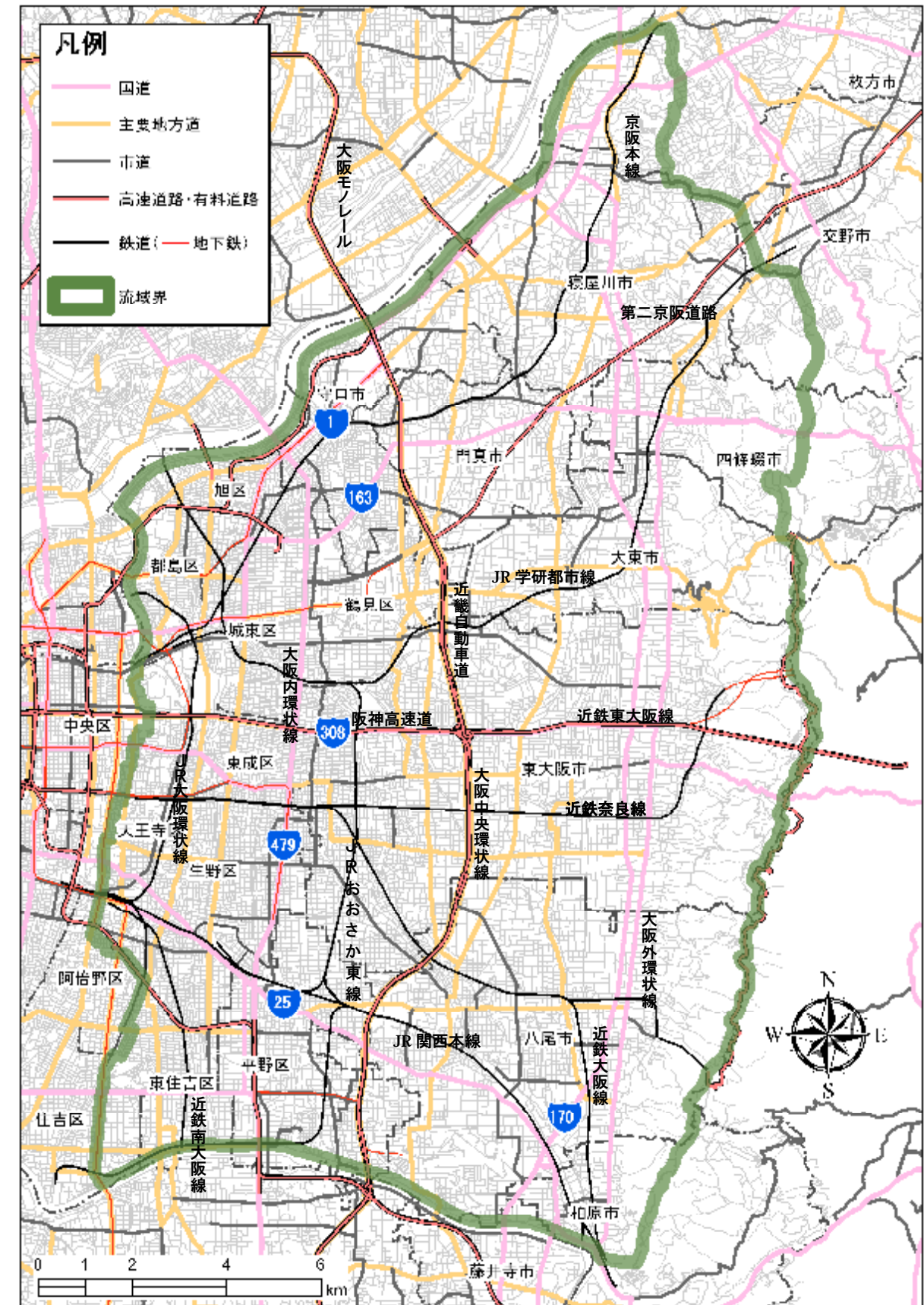


図 1.25 交通網図



3. 河川特性

最下流域における寝屋川の京橋口付近から第二寝屋川との合流点を望む地点は、大阪ビジネスパーク(OBP)と一体となった緑あふれるやすらぎの空間となっており、近くに勤める人々の憩いの場として利用されているなど、大阪でも有数の景観を呈しています。また、河川のすぐ近くには大阪城もあり、水上からの景観は「水都大阪」を代表するものとなっています。

下流域では、昭和30年代から市街化されたため、鋼矢板護岸やコンクリート護岸による洪水対策を優先して進めてきた結果、川の外からはほとんど水面を見ることができなくなり、景観は非常に単調で殺風景なものとなっています。このため、寝屋川や恩智川の高い護岸擁壁に垂直緑化<sup>3</sup>や壁面に絵を施すとともに、川沿いの植樹や遊歩道の整備などにより圧迫感の軽減を図っています。また、寝屋川の河床勾配は1/12,500程度で非常に緩やかであるとともに、大東市住道付近まで大阪湾潮位の影響を受ける非常に複雑な流れとなっています。

中上流域では、河川沿いに整備された寝屋川治水緑地や恩智川(花園)多目的遊水地、打上川治水緑地など上面を公園として活用することにより、普段は府民に憩いとくつろぎを与える存在となっています。

最上流域である生駒山地から流下する支川は、中下流域とは対照的に河床勾配が急であるため、河川の水は生駒山地の斜面を一気に駆け下りる溪流の様相を呈しており、市街地が隣接しているとは思えないほど、豊かな自然が残されています。また、生駒山地から流下する打上川などの支川は、中下流域とは対照的に河床勾配が1/90程度と非常に急になっています。(図1.26)

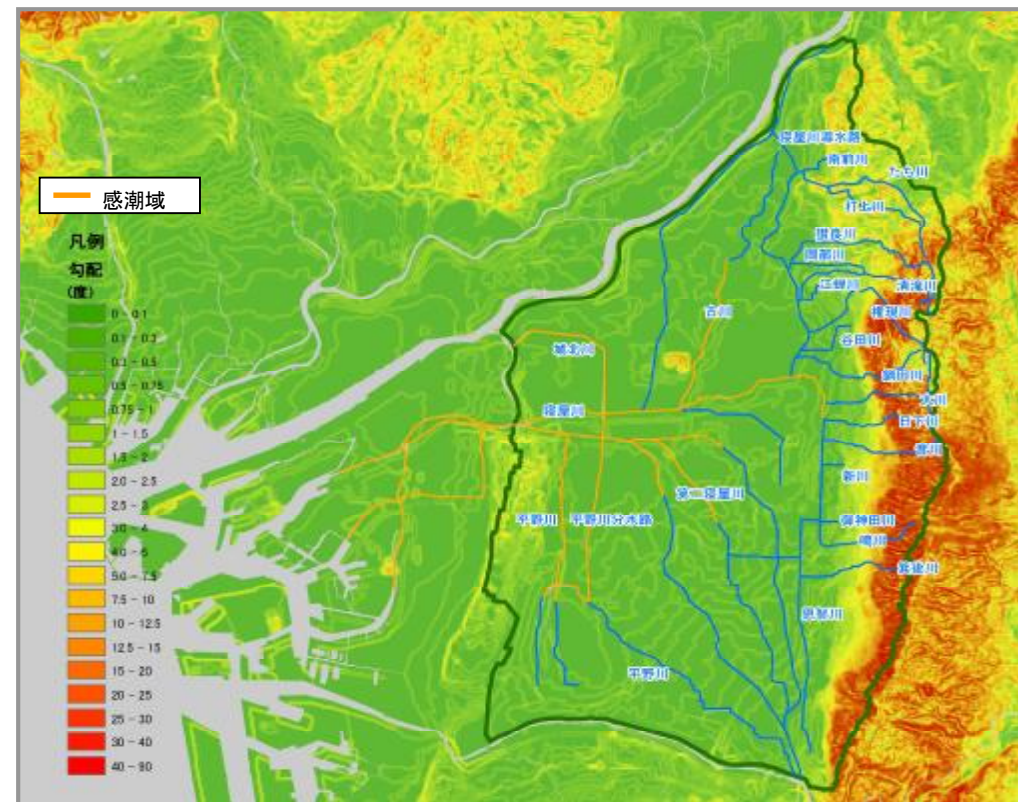


図 1.26 地形勾配と感潮域

<sup>3</sup>垂直緑化：寝屋川流域では、下流域の垂直で高い護岸擁壁に、蔦などの植生を施し、緑化を行っている。



①城北川



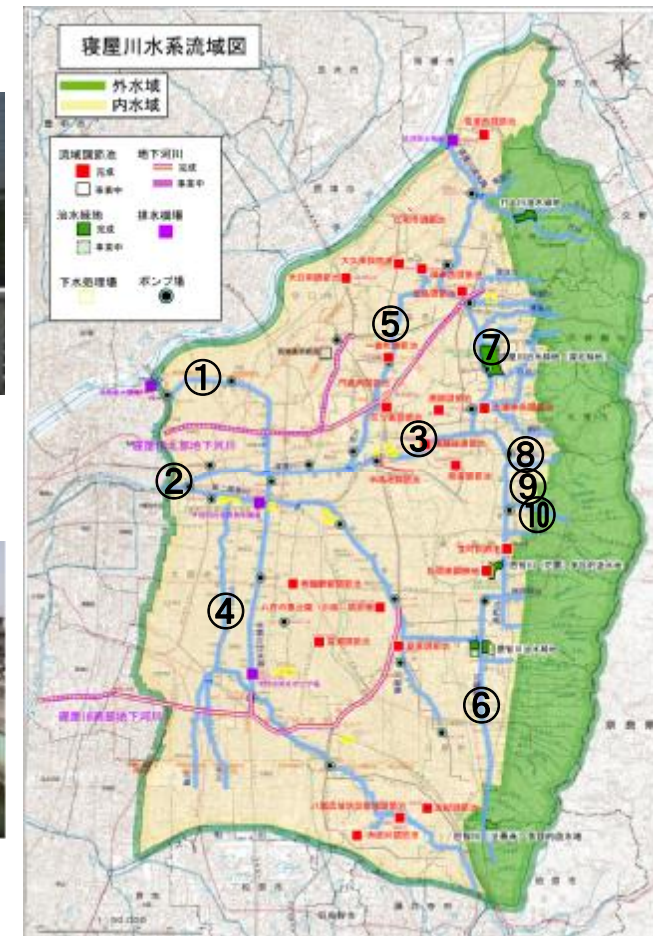
⑤古川



⑦寝屋川治水緑地



②寝屋川



⑧大川



③寝屋川



⑨日下川



④平野川



⑥恩智川



⑩音川

図 1.27 河川の景観